

No.339
2018
6/8



はちおうじ

JR東労組
八王子地本
八王子地本
ホームページ
「東労組八王子」で検索



JR東労組申第27号「乗務員勤務制度の見直し」に関する解明申し入れ団体交渉 解明された事項を熟考し、基本要件を創り出そう！その①

JR 東労組は6月 1・2・5 日、乗務員勤務制度の見直しについて解明申し入れ団体交渉を開催しました。以降、解明交渉で明らかになった点についてお知らせします。各分会での基本要件づくりの議論に活用してください。

※コメント最後の○数字は議論した項
①なら第1項での議論

■現行の乗務員勤務制度の問題点

世の中において多様な働き方が重要視されていて見直さなければならない。社外の変化に対応しなければならない。【多様な働き方の実現】に向けて効率を上げなければならない。7時間10分の中で、より乗務できるようにしたい。当社全体では乗務員が低いレベルで抑えられている。(参考：山手線乗務効率 70%) 実乗務時間を増やしたい。①

■乗務員の将来像

運転士、車掌、今は職責よりも役割分担がはっきりしている。輸送に関わる人の壁をなくしていく。お互いの仕事がわかれば気持ちも分かる。企画部門も乗務する事で色々な事がわかる。自分の役割だけを担うのではなく、融合する事で相乗効果を上げる。③



■今後の輸送サービススタッフの考え方

会社として対抗輸送機関に力がついてきている事に大きな問題意識がある。自動車は自動運転化、高速道路も長距離化など。ワンマン運転・自動運転など、具体的には描けていないが、やらなければいけない危機感はある。③ 将来的に鉄道全体でサービス向上していく時、車掌・運転士の位置づけや役割分担が融合して一つになるのは将来的にありうる。しかし今回から融合を提案している訳ではない。⑥

■乗務労働の特殊性

列車運行に直接携わる乗務員の業務は安全・正確な輸送を担う重要性、連続した緊張・車内サービス等の特性がある。乗務員勤務はその態様が不規則・不定型という特殊性がある。②

■標準数と現在員の考え方

標準を100として、今後は本線乗務員が90名になったら残りは支社・指導担当が乗務する。結果として必要な100という業務量は確保していく。区だけで要員を見る事はなくなる。他のパートから乗務しにくるのが唯一変わるところ。⑦

今も標準数は職場別で設定している。パートが違う方も一括りに管理している。そういう意味で考え方は変わらない。⑦

業務に必要な要員は確保していく。今回の制度改正で標準数に対して現在員が上回ると考えている。その活用は先の論点。①⑦



安全で働きがいある乗務員勤務制度を創り出そう！